

はっぴい新聞

児童発達支援 放課後等デイサービス

10月号
2022 vol.31

児童発達支援

ひまわり教室では、食事動作につまずいているお子さんへの支援も行っています。食事に関する動きには、座って体幹を維持する、箸を持つ、お椀を持つ、お椀を傾けながら食具を操作して口を動かす、食事に注意を向けて食べ方を考えるなど多岐にわたり、この一連の動きのために、身体と感覚、認知機能の協働や協調が求められます。

そのため、お子さんの発達段階やつまずいている原因をアセスメントし、①座位姿勢やバランスといった身体の動き、②食具を持つ手の動き、③目や口の動き、④認知の働きの点からアプローチしています。今回は②食具を持つ手の動きについて行っている支援を一部ご紹介します。

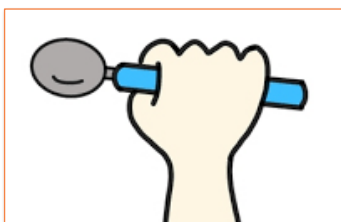
①握りの発達

握る動作には、発達の順序（1→3）があります。子どもが今どの発達段階にあるのかを確認し、それに応じた段階の支援をすることが大切です。手指の発達が十分でないうちに正しい持ち方を無理にさせると、よくない動作につながることもあるので、焦らずに今の子どもの指先の発達段階に合わせる必要があります。

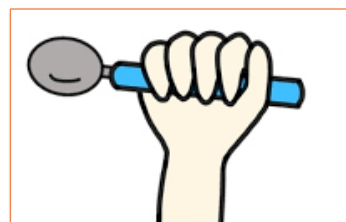
① 手掌回外握り



② 手掌回内握り



③ 三指握り



②スプーンの支援のご紹介

「お口にぱっくん」

ペットボトルのキャップを口の穴に入れます。口元に運ぶ腕の動きと手首の動きの連動を養います。顔に見立て、より楽しく練習できるようにしています。



「輪ゴムすくい」

すくいやすいようにタオル等の上に輪ゴムを置き、輪ゴムを1本ずつスプーンですくいます。チャレンジ課題として、すくった輪ゴムを反対の指に1本ずつ入れていくと目と手の協調性を高めることができます。



③箸の支援のご紹介

手のつまみの機能が発達すると、それぞれの指を独立させ、分離させて動かすことができるようになっていきます。この分離させる動きが上手になると、箸を使った支援に移行していきます。まだ分離させる動きが未熟な場合は、箸自助具を使用し、手の機能をサポートします。

「ひっぱりひも」

コップの中に立てたひもを1本ずつ箸でつまんで、他のコップに移します。



「輪ゴムすくい」

輪ゴムを机の上に置き、箸を使って1本ずつつまんで他の容器に移します。



放課後等デイサービス

9月の運動は〈体づくり運動〉をしました。

ねらいは、体の動きを知る、できた喜びを味わう、思った通りに体を動かす経験をする粗大運動です。指示をよく聞いて、素早く動くという動作は、“聞く”と“見る”“動く”の3つの事を同時に行うので、簡単なようで実は難しい取り組みです。この課題を通して、運動だけではなく、感覚統合にも関係している大切な課題です。

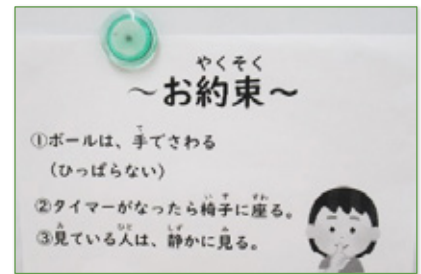
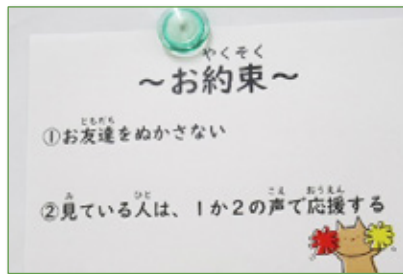


「赤」「緑」「青」は色にタッチします。「ダンゴ虫」「コブラ」「枝のポーズ」は言われたポーズをします。

指導員の指示をよく聞いて、その色にタッチするというものですが、色やポーズを組み合わせた指示をよく聞いて、「どこだ!」「あった〜!」と楽しみながら身体を動かしていました。

活動の前に・・・準備をして、子ども達を待っています。

声の大きさ、ルールの説明など、言葉で伝えるだけでは、よく分からなかったり、忘れちゃったりしますよね。そんな時は、絵や文字で提示する事で、“あっそうだった!”と思い出したり、確認したりできます。指導員も「どうだったかな?」と子どもに、声かけを促す事もできるので、一緒に確認しています。



大好きなステッカー!!

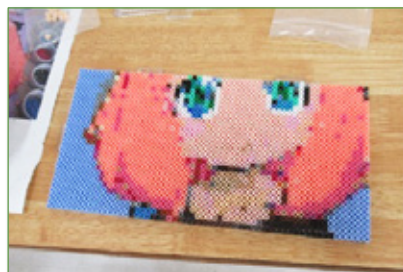
子ども1人1人、好きなイラストやキャラクターが違います。

“座っている姿勢がカッコイイ”“上手にできた”“頑張った”など、どれくらいできたか自分で分かるように、できた事に注目して、自信が持てるようにしています。子ども達も好きなキャラクターのステッカーを貼ってもらえると、意欲にも繋がり、とても嬉しそうです。



小集団支援

1人でじっくり取り組める時間を作るようにしています。集中してできる事で、達成感や満足感を感じ、自信に繋げていけるようにしています。また、少人数で行う事で、お友達と楽しく活動できた共感や指導員とお話できる時間を作る事で、気持ちを伝える練習に繋がっています。



子育てハート便



保育士 池田

児童発達支援で指導員をしております、池田みづほです。いつもひまわり教室にいらっしゃるお子様の成長に関わることが出来て、嬉しく思っています。

療育指導員の仕事を始めて、6年目になりました。私はピアノを教えてきたこともあって、音楽療法に興味を持ち、今は音楽療法士の資格を取るために勉強をしています。音楽療法とは、音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、対象の方のより良い生活のために音楽を意図的、計画的に使用することを言います。

音楽療法を学んでいくと、人とのコミュニケーションは

言葉だけではないのだなという事を改めて強く感じます。言葉ではない、音楽を通して気持ちが通じる体験をすることで、生き生きと身体を動かし笑顔になるお子さんを見ると嬉しくなります。指導員が嬉しい気持ちになっていることを、お子さんたちは敏感に感じ取っていて、一緒に楽しい空間を作っていけるのだと思っています。お子さんと向き合う時は言葉や行動だけで判断せず、なぜそんな言葉が出たり行動を起こしたりしたのか、その背景や願いを探っていきたいです。

芸術の秋、食欲の秋を楽しみたいです。